

# シリーズ 景観60

## 熊野大社

『みんなで残したい松江の景観400選集』から  
景観審議会が特にお薦めする景観

No.319

「意宇六社のひとつ熊野大社は荘厳な佇まいです。例祭になると多くの氏子が集まり、地域の人に親しまれているのがわかります」と推薦いただきました。

古来より出雲国一の宮として知られる熊野大社は、松江市の中心部から南に約15km、車で約30分の山間の地にあります。神社の前には清らかな意宇川が流れており、そこに架かる朱塗りの八雲橋を渡ると、やがて境内の全景が見えてきます。熊野大社の歴史は古く、出雲国風土記（733年）にも「熊野大神の社座す」とあります。当時は、熊野山（現在の天狗山）にありました

が、中世のころに麓の現在の場所に遷りました。そして、明治の神社制度改正で「熊野神社」となり、昭和戊午遷宮（1978年）で「熊野大社」の名称が復活するとともに、本殿、境内が一新されました。

毎年10月15日に行われる「鑽火祭」では、出雲大社の宮司が11月23日の「古伝新嘗祭」に使用する火を起すため、発火の神器を受け取りにこちらを訪れます。このほかにも行われるいくつもの祭礼は、水と農業をつかさどる神様として多くの人々の信仰に支えられ、地域の生活に根付いた後世に継承すべき情景景観です。



「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】まちづくり文化財課 ☎55-5387

松江の景観400選

検索

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。